

南青協便り 第 223 号



南米産業開発青年隊協会会報

2023 年 10 月 01 日発行

Boletim n.223 Seinentai do Brasil : Edição 01 de outubro de 2023



2023-07-01 Tucano de bico branco no pátio de Kaikan de S. Mig. Arcanjo, SP que tem cores preto, amarelo e vermelho
白クチバシのオオハシ、体色が黄・黒・赤の三色で大変珍しいです
サン・ミゲル・アルカンジヨの会館前庭で 2023 年 7 月 1 日に撮影

目次(第 223 号) ÍNDICE(n.223)

一、Fotos da Capa 表紙写真：2023-07-01 Tucano de bico branco no pátio de Kaikan de S. Mig. Arcanjo, SP que tem cores preto, amarelo e vermelho 白クチバシのオオハシ、体色が黄・黒・赤の三色で大変珍しいです サン・ミゲル・アルカンジョの会館前庭で 2023 年 7 月 1 日に撮影.....1	
一、Índice 目次	2
一、パラナ支部集会の参加費 フォス・ド・イグアスー 単独 齋藤信夫.....3	
一、山崎薫氏(7期119番)が逝去されました。 アンドレイア山崎	4
一、9月17日の慰霊祭 サンパウロ 4期 曾我義成	5
一、【会計報告】7月8月 サンパウロ 8期 長田譽歳	6~7
一、クロハラトキ(CURICACA) S.Mig.Arcanjoにて2023-08-05撮影	8
一、自分史(41) ポルトガル 10期 岡井義重	9~13
一、慰霊碑清掃 サンパウロ 4期 曾我義成	14
一、志方氏の送別会 サンパウロ 8期 長田譽歳	15~18
一、ウクライナ戦争は世界を変えている サンパウロ 9期 貝田定夫.....	19~22
一、移住の発端 ジュンジアイー 9期 荒木昭次郎.....	23~25
一、レカネマブ フォス・ド・イグアスー 単独 齋藤信夫.....	26~28
一、マージャン大会始末記 広島県 6期 三戸伸晃.....	28~29
一、ムクジェ市の墓地 サン・ミゲル・アルカンジョ 8期 志方進	30
一、バタータには品種によりいろいろな色の花があります 志方進	31~33
一、フォスの齋藤信夫さんからの写真 S.M.アルカンジョ 志方進	34~35
一、【編集委員】【次号予定、お願い】【お知らせ】【編集後記】	36

【訃報】渡辺尊人氏(6期139番)と山崎薫氏(7期119番)が8月13日に逝去されました。お二人のご冥福をお祈り申し上げます。

【訂正】1)前号の目次において、6期荒木昭次郎と記しましたが、正しくは9期荒木昭次郎ですので訂正し、お詫びいたします。

2)221号28頁の「曾我」の文字を「曾我」に、鈴木さんの「貞夫」の文字を「貞男」に訂正し、お詫びいたします。

パラナ支部集会の参加費をお知らせします。

パラナ支部集会（フォス・ド・イグアスーで10月7日～8日）の参加経費の一人あたりの見積もりです。

参加ご希望の方は氏名、RG 番号、生年月日をマリンガ市在住の伊達さんにお知らせください。Tel (44)3263-1732, WhatsApp 55-44-9916-1780 です。

第1日目（10月7日） 午後14—15時頃 Hostel Ipelandia に集合

パラナ支部総会。以後懇談、雑談。夕食（シュラスコ）約 R\$ 50,00

第2日目（10月8日） 朝のコーヒー Toma o café da manhã

イグアスーの滝を見物 R\$ 75,00

昼食：滝上流のレストラン Porto Canoa R\$ 114,00

または中華飯店 R\$ 60,00

午後 イタイプーダム見学 R\$ 30,00

またはホテルに戻ってビンゴー。

備考：滝、イタイプー内に入るには、当地の市の観光局に登録済の旅行社の

バスのみで、1日当たり R\$1.200,00 ですので、1人あたり 約 R\$ 40,00

夕食（弁当） R\$ 50,00

宿泊代 2日分 R\$ 140,00

以上により、一人当たり R\$ 400,00 から R\$ 500,00 程度になります。

フォス・ド・イグアスー 齋藤信夫



山崎薫氏（7期199番）が逝去されました。
アンドレイア山崎さまからのお知らせのメールを掲載いたします。

Andréia Yamazaki

8月13日

Prezados senhores, venho por meio deste, informar o falecimento de KAORU YAMAZAKI



Falecimento Sr(a): KAORU YAMAZAKI

Velório: MEMORIAL LUZ E VIDA - EMBAÚBAS II - SALA 02

Endereço: AV. DAS EMBAÚBAS, 1899 - CENTRO

Dia do Velório: 14/08/2023 - **Horário:** 02:30 H.

Sepultamento: CEMITÉRIO DE SINOP - MT

Dia do Sepultamento: 14/08/2023 - **Horário:** 08:30 H.



9月17日の慰霊祭が無事に終わりました

サンパウロ 4期 曾我義成

南青協慰霊祭は天候に恵まれ、20余名の会員家族の皆様が参列されて久しぶりに和気あいあいと語り合い、愉快地楽しい1日を過ごすことができました。写真をご覧ください。



南青協月間会計報告 (7月分)

2023年7月31日迄

Data	Descrição	Débito	Crédito	Saldo
	6月よりの繰越分			34.676,52
09/Jul	年会費 5期馬場和義氏		200,00	
09/Jul	寄付 5期馬場和義氏		200,00	
15/Jul	祝議グアタパラ入植祭	300,00		
21/Jul	山形県人会会館 Aluguel 月例会	150,00		
23/Jul	年会費 8期小島忠雄氏		200,00	
25/Jul	年会費 9期板垣勇蔵氏		200,00	
	Rendimento		228,60	
	Total	450,00	1.028,60	35.255,12

<p><i>Bradesco</i> の支店番号と口座番号 Extrato Conta Corrente Takatoshi Osada Agência 1480 Conta 0033226-7 Disp.P / Poupança</p>	<p>Saldo</p> <p>35.255,12</p>	<p>Agência 1480 Conta 33226-7 Takatoshi Osada CPF 698.506.588-00 CEP 04371-000</p> <p>Cheque の送り先 Takatoshi Osada Rua Rishin Matsuda, 467 Vi. Sta. Catarina Jabaquara - SP</p>
---	--------------------------------------	--

南青協月間会計報告 (8 月分)

2023 年 8 月 31 日迄

Data	Descrição	Débito	Crédito	Saldo
	7 月よりの繰越分			35.255,12
02/Ago	会報 222 号 copia	1.453,50		
05/Ago	会報 222 号 correio	704,90		
14/Ago	香典期渡辺尊人氏	300,00		
19/Ago	円光寺慰霊碑清掃弁当・飲み物	137,70		
	Rendimento		239,90	
	Total	2.596,10	239,90	32.898,92

<p>Bradesco の支店番号と口座番号 Extrato Conta Corrente Takatoshi Osada Agência 1480 Conta 0033226-7 Disp.P / Poupança</p>	<p>Saldo</p>	<p>32.898,92</p>	<p>Agência 1480 Conta 33226-7 Takatoshi Osada CPF 698.506.588-00 CEP 04371-000</p> <p>Cheque の送り先 Takatoshi Osada Rua Rishin Matsuda, 467 VI. Sta. Catarina Jabaquara - SP</p>
---	---------------------	-------------------------	--



クロハラトキ (CURICACA)

2023-08-05 サン・ミゲル・アルカンジョ会館マレットゴルフ場にて撮影



「よっちゃん」は1970年に日本に短期的に治療の技術を向上するために行こうと計画を立ててその事を日本の両親に報告したら、帰る時は一人で帰るなよ！と言われてハッとした事を今でも覚えています。

それは両親が「よっちゃん」の為に花嫁さんを探していたという事です。

花嫁さんというと今住んでいるポルトガルでも花嫁さんを随分と呼び寄せていたと言われていました。ポルトガルでは1950年代と1960年代にブラジルに大きな移民の流れがありました。それはとても経済状態がひどく、仕事の機会がなく、より良い生活を送る為に未婚の若者達に移住したのです。

「よっちゃん」の場合は仕事・仕事でナモーラ(恋愛)する暇も、又その機会も無く、ナモーラする方法も知らなかった？ので、まあ、経済的にやっていける状態になっていたので結婚しても大丈夫だと自信を持っていました。ポルトガル人も同じです。移住すればもう働くだけ働くのですから、ナモーラする時間はなかったのです。

ポルトガルではあの当時の若者たちは「花嫁の仲介」又は「代理結婚」として知られ、故郷にいる両親や親戚などに頼んで探してもらっていたそうです。日本では花嫁として移住したいという積極的な女の人達の集まりを政府がお世話して、ブラジルに送ったわけですね。随分と日本と似ています。

さて、「よっちゃん」の花嫁さん選びは渡辺先生がじっと写真を見て、結論を出したのが勿論今の家内の順子ですが、どうして彼女を選んだのかと尋ねました。東京にいる兄貴が紹介した女の人の写真は見合い用にカラー写真で、きちんとしたものであり、非常に美しい人でした。

ところが順子の写真はスナップ写真でそれも昔よく撮っていた6x6(ろくろく版)と言って二眼レフで撮ったあの大きさと、かつ白黒で、中央に家がありその家の前で撮った人物が小さくてよく見えないのです。それで虫眼鏡を利用して見てある事に気づいて決めたそうです。

それは彼女の耳が福耳であったからなのです。

普通人を観る時は背が高いか低い、痩せているか太っているか、顔がきれいかどうかで判断しますが、耳で判断したとは！ 勿論とても正解でした!! 何故って結婚してからもう今年(2023年)で53年経ちますからね！
3人の子供に恵まれて孫が7人です。

「よっちゃん」は代理結婚ですから、裁判所に行って裁判官の前でちゃんと証明しなければなりません、代理になったのは私の男弟子であったので、周りから見れば、なあんで、あれは男同士の結婚か？と見られていたかも知れませんね。

日本に短期の勉強といっても、あの頃はPCもないのでインターネットは出来なかった、兎も角これという治療関係の一流の先生方に片っ端から手紙を書きました。先生の治療に感服した事やぜひお話を聞きたいと切にお願いしたところ、20人近くに出したのですが7~8人から丁寧に会っても良いですよと素晴らしい返事を頂きました。

今みたいにインターネットでワークショップをしている先生方の情報を得るのは簡単ですが、あの当時は「よっちゃん」はどうして連絡を取ればいいのか知りませんでした、幸いに手紙で了承している先生方に日本に着いた時に先生方に連絡してアポを取ってから行動しました。

「よっちゃん」の実家は青森市です。移住する前は青森の通りの名前はとてもユニークなものでした。例えば「よっちゃん」の住んでいる所は寺町と言って、お寺が四つあって、一番寺、二番寺、三番寺、四番寺と言っていました。勿論正式に名前が有り、一番寺は常光寺、二番寺は正覚寺、三番寺は蓮心寺、そして四番寺は蓮華寺です。

そして海の方角にある通りを米町と呼ばれ、以前はコメ取引が盛んだったことに由来する名前で、次は大町が続きます。

ここは地域で一番の商業施設があった場所でしょう。そして一番海辺に近い通りを浜町通りと言って、漁船がつく船場で漁業が盛んで特にニシン御殿と呼ばれた位ニシンで大儲けして、ニシンをとる漁師さんたちをニシンの神様とも呼ばれていた場所でした。

ですから漁師さんたちは儲けたお金で毎晩飲めや食えやのドンチャン騒ぎを料亭で行うので、そのため芸者さん達もとても多かったと言われていました。この料亭がある海の近くを通る街を浜町通りと名付けたのも道理です。ところが今はそういう名前を廃止して本町何丁目になってしまいました。理由は分かりませんがどうしてでしょうか？

余談になりますが、その頃(1935~1942頃)「よっちゃん」の実家では下駄屋をしていました。あの頃は下駄や草履や高下駄などで結構芸者さんたちの履く草履もよく売っていたので良かったみたいですが、ある日ある芸者さんでここに鼻紙が無いのね？と言われたので、親父は早速鼻紙を置いたのですがなかなか売れません。

売れないので上の方に埃が溜まるので一枚取り捨てる、又一枚という風に5~6枚取った時に例の芸者さんが、あら鼻紙があるのね~と言って買ってきました。

それを機会に鼻紙が売れることになったのですが、ここに何々のクリームが無いの？などと聞いてくるので、親父は店の一角に化粧品売り場を設けました。それが大当たりして儲けること、儲けること凄かったらしい。それで家と店を二階建ての大きな家を作ってしまいました。

ところが戦争がどんどん激しさを増して、日本本土のあちこちがアメリカの飛行機に爆撃され始めたので、この青森まで来る情報があったので、大きな家は強制的に解体しなければならない法律ができ、解体せざるを得なくなりました。

それで親父は、日本は負けるかも知れないと思い、庭に大きな穴を掘ってもし戦争で負けても家族が5年間はひもじい思いをしないように、色々な商品をどっさりと埋めておいたのです。

そして親父に赤紙が来ていたので、召集されて家を出て行ったのですが、幸いに外地には行かなくて内地の海軍基地のある横須賀に配属になったそうです。

親父によると基地内で随分と良い思いをしたそうです。時々機運を上げる為に剣道の試合があるそうです。普段から剣道の師範であると言っているので、皆は一目をおいていたらしい。それで試合になると、ぜひ審判長にと迎えられたとの事でした。

彼は剣道の事など全然知らないが、やった事もないのに堂々としている気風を周りの人が感じるのでしょうか。彼の手を見るととてもゴツゴツしていて、明けても暮れても剣道の練習をしているような手であったらしい。それは下駄職人として何十年も手で下駄を作っていた証拠の表れです。

剣道の選手達は試合で勝負が決まればそれで良いが、際どくて判定がしにくい時が時々あったらしい。その時は恭しく審判長にお伺いするのですが、親父はその時は隣の副審判に貴方はどう判断するか？と尋ねると、ああでもない、こうでもないと言って彼は自分の判断の意見をするそうです。

そうすると親父はそうか、俺もそう思う、素晴らしい判断だと褒めて彼の意見を取り入れて持ち上げていたそうです。ですので、副審判は親父をとっても尊敬していたそうです。

こんなハツタリと人を持ち上げるのが上手なせいも、無事家族のもとに帰ってくることが出来ました。その頃は青森市の町の70%はアメリカの爆撃で焼き尽くされて、勿論自分たちの家も又庭に埋めてあった全財産が爆撃でスッカラカラとなってしまったのです。呆然としたことでしょう。

その頃、我々子供たちは山形に疎開していて、空襲の事などはつゆほども知らずで、ただひもじい思いをしていた日々でした。親父は悲しくてガッカリするようなタチではないので、すぐに街に出て将来の工面をしなければならぬ、家族を呼び戻さなくてはならないと思っていた事でしょう。

町外れをぶらぶらしている時、ある店の主人が声をかけてくれたのです。岡井さんではないか？よくご無事で、それで今何をしていますか？

何をしていいか分からないのでぶらぶらしているのです。それなら私たちの品物を売って下さいませんか？ でもお金は全然ありません。

岡井さんなら良いですよ、戦前手前どもから沢山の品物を買って頂き、それにいつも現金でちゃんと払って貰ってとても助かっていたのですよ。ですから今度は品物をいくらでも持って行って頂いてお金が入ったら払って下さい。と言われて親父は涙が出るほど嬉しかったと言っていました。

その当時の戦後は物が無いので、あればすぐに売れるし、インフレなので元の値段の3倍4倍でどんどん売れるので、商品を卸してくれる問屋も嬉しいし、この機会をくれた問屋に感謝しつつ儲けさせて貰った。そして小さいながら店を開きその後ろに家族が住めるような家を作ったのです。

この親父の話は、「よっちゃん」の婚約者が北海道の網走の近くの村に住んでいるので、そこで結婚式を挙げる為に青森から函館まで連絡船に乗った時、船の旅だけで4時間半かかるので、その間丁度親父と二人きりになれたので、初めてごろ寝(連絡船は椅子に座るか畳もあった)しながら今までの話を初めて聞いたものです。

つづく



慰霊碑清掃

サンパウロ 4期 曾我義成

早川さん長田さんと共に慰霊碑の清掃を8月19日に済ませて来ました。
慰霊祭は9月17日（日曜日）午前10時から開催することに決めました。



上は金閣寺 下は桜並木です



志方氏の送別会

サンパウロ 8期 長田譽歳

8月31日夜、親友早川氏から電話が入る。その内容を聞いて呆然とする。話の内容は親友志方氏が今月9月23日に日本に帰国して、もう戻らないといわれる。その二日前の志方氏から私への電話によると、今家の中の諸々の荷物の整理をしている、その荷物の中でどうしても捨てられない物があるので、持って行くが貰ってくれないかと言われる。彼の家から私の家までは約180キロメートル有るので、志方氏にも何かの事情があるのだろうと思い、何も言わずに是非戴きますと答える。

すると来週の9月7日に持って行くといわれる。随分性急な話だと思う。それでも私の方はその4連休は何処も行く予定が無いのでOKと答える。それで早川氏との電話に戻ります。志方氏は9月23日出発の日程で彼の長男が航空券を手配して、彼も同行すると言われる。

その長男はアメリカ合衆国のニューヨーク市の近くに住んでいて子供も高校生で安定した生活をしていて、今年の夏休みには親子でブラジルに遊びに来られたと聞きます。

志方氏の息子の次男と三男は日本での生活が長く、安定した生活を送っていて、二人は日本国籍も持っていて、三人の息子から日本での生活を勧められたのに従い、日本で余生を送る決心をされたようです。

今2人の息子が日本で志方氏夫婦が住む家を探していると言われる。その場所は静岡県の富士宮市の北側のJR身延線沿線が良からうと言われる。

富士宮市の近郊は何処の方向からも富士山が最も美しい場所です。気候は冬も温暖で、夏は海風が吹いて大変凌ぎ易い処です。それに長沢師匠が創設した建設大学の跡地も富士宮の郊外です。産業開発青年隊の碑のある場所から程近い場所に四期折々の花を咲かす花園が有ります。近くには白糸の滝も

有り弁当を持ってのピクニックには最高の場所です。又早川氏の電話に戻ります。

ついでには志方氏の送別会をしたいものと言われる。場所はニッケイパラセホテルの地下の日本食堂か、山形県人会の会館はどうかと言われる。

それなら志方氏は7 de setembro (9月7日)の祭日に私の家に来る予定があるので私の家のサロンでしょうかと私が言うと早川氏は大変喜んだ。

しかし問題は女房子共に相談せずに決めただけで彼女等の都合はどうだろうか心配になる。女房の都合は兎も角として準備を手配するのは長女なので彼女の都合が一番です。彼女に話を聞くと連休の初日は空いているけど、その後の3日間は子供のボーイスカウトに寄り添うが、初日の7 de setembroは大丈夫と言われ、ほっとする。そして3女は駄目だけど次女は大丈夫と言われ安心する。

残りの問題は招待者が予定通り集ってくれるかです。決めた日より一週間を切っているので招待者が予定どおり来てくれなければフェスタになりません。我々の同期の8期の仲間では最近病気を患った北田氏以外はOKでした。他の南青協の人では何時もの催しに参加される常連の曾我氏、猪口氏、温水氏、馬場氏の了解が取れたので招待者は万事OKです。

当日の天気予報も温暖で問題無しとの予報。折角の催しも参加者の気持ちの高揚が無いと寂しい。

其処で友人の温水氏にウイスキーを一本持ってきてくれと頼む。招待者の四夫婦は近くに住んでいるのでタクシーのウーベルで来られる。今は便利に成ったものです。

さて催しの当日朝起きると天気は穏やかな快晴で、私の家の奥に入る通路脇に植えられた3本のジャボチカバーの木の花が今日のフェスタに会わせて満開に咲き、素晴らしい匂いを撒き散らしている。

その花を見て、私は今日の志方氏の送別会の催しは最高に盛り上がり成功間違いのないと思われた。11時半には主賓の志方氏が到着する。

彼は少し大きめの箱を二つ持って来られる。その一つには沢山のクリスタウのコップが入っている。志方氏はブドウ酒党でしたのでその都度その都度集めたのでこんなに沢山に成ってしまったのだろうと思われる。日本に持って行けたら良かったのにとと思われる。もう一つの箱は主に名画の美術全集で全て価値有る書籍です。これら全てが子供等に譲る宝物になります。

今日のフェスタの主賓に続き、続々と招待者が到着。和やかな談笑が流れ20名の楽しい集いが始まる。



今までの私のフェスタの中で今回の志方氏の送別会が一番盛り上がったと思っています。あわただしく準備したフェスタでしたが無事に終わってやれやれとほっとしています。

下の2枚の写真はフェスタに集まって食べながら談笑する皆さんです。



ウクライナ戦争は世界を変えている

サンパウロ 9期 貝田定夫

ロシアがウクライナに侵攻してから1年半になる。この戦争に対する全ての予測が外れ、ロシアとウクライナの我慢比べになっている。いかなる結末が待ち受けているのか誰にも分らない。

欧米諸国のロシアに対する経済制裁、ウクライナへの武器の供与は欧州のみならず世界のエネルギー供給、食糧問題にまで影響している。そして世界の国々は欧米側につくのか、またはロシア・中国側か、それとも中立を守るのか、選択を迫られている。

このような緊張した状況の中、8月の末に BRICS(有力新興国)の首脳会議が南アフリカで行われた。時が時だけに世界が注目することになった。BRICS は反欧米の集まりか、世界を仕切る新勢力になるのか、理念なき結集には限界がある、など色々な見方がなされている。

BRICS とはいかなる集まりなのか。2001年、アメリカの大手投資銀行ゴールドマン・サックスが投資家向けレポートに、潜在能力を持つ有力新興国として、ブラジル、ロシア、インド、中国を書いたのが始まりとされている。4カ国の頭文字をとって BRIC と呼ばれた。2011年になってから南アフリカが加わり BRICS と総称されるようになる。従って、BRICS はその起源からして同盟や連合でもなく、条約もない。欧州連合(EU)のように共通の理念を持ったものでもない。しかし、2010年頃から首脳会議を開くようになり、政治、経済などについて議論されるようになった。

BRICS の合計面積は世界の総面積の30%に相当し、5カ国とも資源大国である。また人口大国でもあり、インド14億人、中国も14億人、ブラジル2億人など5カ国の合計人口は世界の40%に相当する。広大な国土、巨大な

人口、資源も有する BRICS が協力し結束するならば一大勢力になるだろうが、各国の国家戦略の違いはあまりにも大きくその可能性は非常に小さい。

中国、インド、ロシアは BRICS 内で存在感がある。これら 3 国の関係はどうなっているのか簡単に述べたい。

中国とインドは領土をめぐる犬猿の仲、カシミール地方では軍事衝突が時々起きている。双方とも相手を非難するばかりで解決の糸口は見えない。中国とインドとの関係は悪く、両国が結束するなどは考えられない。

インドは中立的な立場で全面外交を展開している。ロシアを非難することもなく、欧州がボイコットしたロシア産原油を格安で購入するなど、国益のためなら何でもするというしたたかさである。インドはロシア製の兵器を多く使用しているが、安全保障では日本、アメリカ、オーストラリアと連携している。

ロシアは欧米諸国の経済制裁で困窮しているため、BRICS を利用して仲間を増やしたい。孤立化を防ぐためにアフリカ諸国や反米のイラン、北朝鮮にまで働きかけている。ロシアと中国は反欧米で一致している。

ブラジルは残念ながら BRICS 内での存在感はない。中国とインドは急速に発展して大国となったが、ブラジルは長期にわたって低迷している。「ブラジルの悲惨な 10 年間」(南青協便り 220 号参照)がブラジルの発展しない理由を指摘している。特にジウマ政権とテメル政権時代、政治は大混乱し経済は坂道を転がるごとく悪化、最悪の時代だった。

BRICS の会議に出席したルーラは国際社会で脚光を浴びたいのか、BRICS の共通通貨を作りたいと言った。ロシアのプーチンも同様の発言をした事が

あるので、その可能性について述べてみたい。一言でいえば、欧州連合(EU)のユーロさえうまくいっていないのに、BRICSの共通通貨の可能性はない。

EUはヨーロッパの陸続きの民主国家で構成されている。条約に基づき共通通貨ユーロをつくった。しかし、ドイツやフランスなどはユーロの恩恵を受けて繁栄したのに、南欧のイタリアやギリシャなどは度々財政危機に見舞われるなど、大きな格差が生まれた。象徴的なのが2009年のギリシャ危機である。ギリシャは通貨の切り下げを考えたがEU本部の許可がなければ何もできない。自国の問題を自分で処理できない皮肉なことに直面した。ユーロの導入は失敗だったという見方が多くある。

中国とインドは国家体制が全く異なる。独裁国家と民主国家、経済の仕組みも違う。この2か国が国境問題を棚上げして経済協力するとは考えられない。共通の通貨を作るなどは論外であろう。中国に関して言えば、情報を公開しない、発表する経済指数も実際とかけ離れている、共産党の意向に従って人民元を操作する。現体制が続く限り方針が変わることはないであろう。

ロシア、ブラジル、南アフリカも夫々異なった国家戦略がある。同床異夢のグループで協力するとは言いが具体性がない。

今回のBRICS会議でもう一つ注目されたのはBRICSの拡大だった。サウジアラビア(以後サウジとする)、アラブ首長国連邦(UAE)、イラン、エジプト、エチオピア、アルゼンチンの6カ国を新たに加えることを決めた。しかし、何故これら6カ国が選ばれたのか説明はなかった。

サウジとUAEはアメリカと良好な関係にあったのに、今回、反米を鮮明にしているBRICSに加盟したのは何故だろうか。その裏に何があったのか見てみたい。

トランプ政権時代、アメリカと中東のアラブ諸国は良好な関係にあった。何故ならトランプは中東和平を推進し、アメリカの仲介でイスラエルと UAE、およびイスラエルとバーレーンの国交正常化を果たした。しかし、バイデン大統領はアメリカの政策をガラリと変えた。エネルギーに関しては化石燃料から再生エネルギーへの移行。バイデンは自国の石油・ガス開発を規制するばかりでなく、中東の産油国にも圧力をかけた。

アメリカではインフレでガソリン価格が高騰、バイデンは石油を増産して価格を抑えようとしたが、「石油を掘り過ぎるな」と言っている手前、国内の業者に頼むわけにいかない。そこでサウジへ「石油を増産してくれ」と頼んだ。

これを聞いたサウジの皇太子(政治の実権を握っている)はバイデンのあまりの身勝手さに激怒した。サウジが言いたいのは「アメリカには石油がある、自分で掘ったらいいではないか」ということ。中国はこれらの情報を手に入れると素早く動き、サウジと UAE を自陣に取り込んでしまった。バイデン政権のメンツまるつぶれである。

アメリカの影響力が低下したとはいえ、アメリカの大統領次第で世界が変わる。それ故、来年のアメリカ大統領選挙は注目されている。トランプが再選されるならば、ウクライナ戦争は終わる可能性がある。



移住の発端、安摩さんと黒木さんについて

ジュンジアイー 9期 荒木昭次郎

私がブラジル移住を考えた発端は当時読売新聞に報道されたブラジルの新首都建設で、そのため将来には高速鉄道網と道路網、それにブラジル全体を網羅する電源と送電網の施工設備が凄い勢いで進展すると思い、東京の狭い街路の上下水道の工事に就いている者には夢の世界でした。そんな事を感じてブラジルに移住して大型ダム工事の一端に就けた事には大きな幸せを感じています。この事に移住当初から手助けをして戴いた先輩の黒木喜八郎さんに感謝し思い出の一部を書いてみます。

青年隊第1次 1956年移住の黒木喜八郎さん。

私は63年にサントス丸でサントスに着いた9期生の一人で、広大な希望のブラジル大地に着き、当時に名を知られていたマリア・フマッサで、連なる丘を越えるのに右往左往しながらのパラナ行きでした。ドウラードスの訓練所で半年間ほど世話になり、サンパウロに出て菊池さんが受け持つ機械班に1年間ほど世話になりましたが、ブラジルに移住した動機などを先輩で隊員の世話をする進藤次夫さんに説明をして、ブラジルの会社の勤め口を探してくれるように頼んでいました。

数日後に運良く1次移住の黒木さんと安摩さんが新首都ブラジリアで、新区画整理の測量仕事に就いている事を調べてくれ、それで黒木さんに電話で話し、出来れば私に仕事の紹介をして下さる様話してくれました。次の日に黒木さんからの返信があって、今はサンパウロ州境に近いカショエイラ・ドウラードと言うダムの工事現場第2期工事に来て施工事業者のゴヤス電力会社の測量部の責任者として勤めているとの事で、今は測量部に空席はないが、出来れば一度訪ねて来て下さいとの話しだったとか、そんな訳で機械班の菊池さんに話し許可を受けて（労働契約書や労働手帳など何もありませんでしたが）新首都ブラジリアがあるゴヤス行きを決めました。今でも特に良く思い出にあるのは週末などに時々会っていたコロニアで知名度のある田尻鉄也さんでした。彼とは菊池さんの事務所とか、エスツダンテ街のペンソン

で会った事などもあり、いろいろと話を聞く機会があった事です。彼の考えでもブラジルは大きな自然の潜在力は世界一で将来が楽しみな国だとの話だった事です。

数日後にゴイアニア行きの夜行バスで北上し、ゴヤス州の最初の町イツンピアラで降り、地方便に乗り換えカショエイラダム工事場に行き黒木さんを訪ねました。事務所に呼ばれて行き、いろいろ話し合いをしましたが、以前の話しのとおり、今は空席はないが、これから半年ほど後に現在進行中の第二期工事（第一期の4基は発電中）二基のタービンの据え付けの工事が始まる予定なので、その時に必要な精密測量に慣れた人が欲しいので呼んでくれるとの話しでした。そしてそれ迄にゴイアニア市に行って安摩さんを訪ね、仕事を紹介して貰っていて下さいと話し合っ別れ、ゴイアニア市行きのバスに乗りゴイアニア市に行きました。

ゴイアニア市に着いて尋ねた住所に彼は住んで居たそうですが、ゴヤス電力会社の仕事で地方に出張中とかで不在でした。でも一緒に住んで居る方がやはり測量仕事をやっている方で、10年ほど前に山口県からの単独移住者で、サンパウロで数年過ごしましたが、仕事になじまずここゴイアニア市に来て測量の仕事を覚え、知人が紹介する仕事についているそうで、私の話を聞いて、貴方は測量の仕事に詳しいようなのでと言って知人のブラジル人土木技師ジョアレス氏を紹介してくれました。彼は200kmほど北のセーレスと言う町に事務所を持って、何時も数十台の建設工機を持っており、それに何時も2、3ヶ所の州の新設と増設の道路工事と測量設計の仕事を受け持っているので、早速始める予定の工事などの事で話し合い、経費についても話しがついて、初めて請負仕事を始める事になりました。

それから約半年ほどになりましたが黒木さんより電話があり、例の仕事が始まるのでと呼ばれてダム現場行きとなり、労働手帳を取り正式に州立のゴヤス中央電力会社員と登録され、黒木さんの応援で私のブラジルでのダム

屋 (barrageiro) としての第一歩を歩み出した訳です。そんな訳で得意の手慣れた測量仕事で私の夢だったアマゾン地方までの工事仕事に就く事も遠い夢ではなくなると感じた事でした。

その後黒木さんは建設会社メンデス社から呼ばれて、新しく工事が始まったグランデ河に建設が始まったジャグアラダム工事現場に呼ばれて行きましたが、その後すぐ私も呼ばれてメンデス建設会社の従業員として採用されて勤めました。

黒木さんはその工事後にまた別の工事場パラナパネマ河のテオドロ・サンパイオ町に近いタクアルスダム工事の技術部の責任者として呼ばれて行き、その後イタイプーダムにもメンデス社から派遣されて行っていました。がその後定年を迎え、ゴイアニア市の自宅に日系の奥さんと3人の娘さん達も結婚して近くに住んでいて、何時も楽しく過ごして居たようです。黒木さん夫婦には私の結婚式に保証人として参加して下さい、以降お互いに工事現場暮らしでしたが、時々会う機会もあり、長い間付き合っていました。亡くなったのは1917年7月31日で、奥さんから電話連絡を受けましたが、ゴイアニア行きの飛行機便が間に合わず、次の日早朝に家内と一緒に車で遠路駆け付け墓地に花束を重ねて、先輩ありがとうと別れて来ました。私には良き青年隊先輩として先導して下さいました。感謝です。

安摩さんもイタイプーダムの測量部に来て働いていましたが、その後またゴイアニア市に戻り個人で電力会社の測量仕事を受けていましたが、彼は1913年に亡くなっています。家族はブラジル人の奥さんと養育された子供が一人居たと覚えています。安摩さんと最後に会った時に言われた言葉ですが「あなた方が来て良い仕事をしてくれたおかげで、私等の仕事も良く認められて良かったです」と恥じ入るような言葉を戴きました。ありがとう。



あれは、8月21日の朝の事でした。NHKの朝7時のニュースを観ようとテレビのスイッチを入れますと、キャスターが世紀の大朗報と言わんばかりに話し始めたのが、表題の「レカネマブ」の事でした。

このニュースを御覧になった方も多いと思います。

日本の製薬会社エーザイとアメリカの製薬企業のバイオジェンによって、共同開発されて出来上がったのが、上記のアルツハイマー病の治療薬である「レカネマブ」です。

この間までは「ボケ！」なんて、馬鹿にされていたように呼ばれていましたが、現在では「認知症」と云う、立派な名がつけられております。

その認知症の約6割が、アルツハイマー型の認知症との事です。

いやあ！ わっしも最近ですね。物忘れが激しくなりましたんで、このニュースを大変興味を持って観ましたんですよ。実はこのあいだ、出かけようと思って、セダン車に乗り込みエンジンをかけたところで、忘れ物に気付かしまして部屋に戻ったのですが、部屋に入った途端「あれ！何を忘れたんだっけ！？」と、何を忘れたかを忘れてしまった。皆さんはそんな事ありますか？ これじゃまるで中年の星、綾小路きみまろの一人漫才じゃないか！？なんて思い、頭を捻るばかりでした。これは認知症の始まりではないか？？

そんな事がありましたので、テレビを観た直後、日本からイグアスー観光に来るグループの添乗員の事を思い出しました。コロナ以前から、もう30年程も一緒に仕事をしている仲間です。この3年、観光業は開店休業でしたが、この頃やっと、日本からも少しずつ観光客が戻ってくるようになりました。それで早速彼女にメールを送り「レカネマブ」を買って来てくれと頼みました。3日後 彼女は小さなグループを引率してやって来ました。ほぼ4年ぶりのかたいハグをしまして、すぐにレカネマブの話になったのですが、彼女曰く「あの薬は、薬局へ行って、簡単に風邪薬を買うようなわけには行

きませんよ！」と「日本から持ってきましたから、読んで下さい。」と朝日、毎日、読売の3紙と週刊誌をくれました。

帰宅後、早速その新聞を順次開いて見ますと、なんと3紙とも1一面トップにでかでかと「レカネマブ」のニュースが載っているじゃありませんか！それを読んでみますとなるほど、アルツハイマー型認知症治療薬としてのレカネマブ新薬は、まさに大朗報に違いありませんが、まこと「薬局へ行き風邪薬を買う」ようには、簡単でない事が理解出来ました。

誰でもがこの治療薬を買って、治療できるわけではなく、まず初めに医者の診断を受け、軽度のアルツハイマー病か、あるいは初期段階である事が解った者だけが、レカネマブ使用の治療が出来るという事なのです。

すでに認知症に侵されている患者には治療する事は出来ません。この新薬は、認知症が進行性の病気であるので、その病気を軽度であれば、現時点で病気の進行を止める事が出来るという薬です。しかもまだ、何かと問題も多く、新薬の180名の患者に対し、1年半の認知症臨床試験の結果において、病状の悪化をした者が27%、脳水腫12,6%、少々ではあるが脳内出血者が17,3%とあり、それになんと死亡者がなんと3名あったと言います。

すぐには命に別状ないという病気治療で死亡者が出ると云う重大な副作用があるのが分かります。それに実際に治療を始める事が出来ても、決して楽なことではないようです。二週間に一度、病院に通い治療薬の点滴をします。それを一年間続けます。その一年間のレカネマブ薬代はアメリカでは、何と2万6500ドル（Realでは132,500）程になります。代金は支払う事が可能としても、1年間、2週間に1度病院通いも大変です。それで死んでしまっただけで割に合わないことです。

それよりも、認知症になったら、家族には多少の迷惑は掛かってもいいから、「恍惚の人」となって、何も知らずに、のんびり過ごしあの世へ旅立つ方がいいかもね！

いや、今回の治療薬の開発は、其第一歩を踏み出したということで、この先1年、あるいは2年もたてば、もっとより良い、治療薬が開発されるにちがいない。それはどのような認知症患者にでもよくきく、薬であって欲しいものだ。

全国マーじゃん大会始末記 日本 三戸伸晃

7月29日、新幹線で「名古屋」まで行き其処から在来線「長野線」に乗り換えて長野市手前の「松本市」まで行きました。此処の汽車は迷河川？「木曾川」左岸沿いに山の中をドンドコ登って走る「特急便？」といえども、ヤットコサで登る。

名古屋から三時間も費やして山中の「松本市」に着く。

「松本市」は山中なれども人口25万人？の「大都市」であった。大会会場は市立公民館の大広間で、先ずはホテルに荷物を預けて市内観光で、国宝の「松本城」を觀賞する。

流石に「国宝！」らしく、全国から大勢の観光客で、入口ではかなりの行列に並ぶ。入り口では其処の監視員曰く「立ち止らないでドンドン前に進め！」と言う。「ナニ言ってやがる！」ドンドン進めば何しに「観光！」する意味があるかい！と文句タラタラ言いながら、狭い急階段を昇る。狭いだけでなく照明がナイから、エイヤッ！と体を上げると「ゴン！」と天井の横柱に頭をブツケテ「イタッ！」。頭より「鹹」がイタイ！ヤレヤレ気分を壊して、途中から「引き返して」城から外に出た。

ホテルに帰って・首筋に・湿布を張る。

翌日は9時までに「試験会場集合」で開会式が始まり、今回の「大会参加者は152名」と発表 アラマッ！ワシの4回の出場では、毎回100名から130名であったから、今回の多数に驚く。

大会委員の試合構成ではいつものとおり「東・南・西・北」を全員が全て回れる組み合わせになっているから、其々に配られた「前掛け」を首からぶ

ら下げて、一回毎に「席替えをされたい！」云々。一回の所要時間は前回と同じ50分！ 時間が来たら、例え競技中であっても、即中止。

その席の4名は各自が自分の持ち点を発表する。その点数表はその席のトップが役員席に持参して役員検査の上、壁に張った「成績表」に記載する。一回50分で、10分間はトイレ休憩や次の席に移動する時間だ。

二回目は全員が「知らぬ同士の4名」。「ヨーイ始め！」の合図で、お互いは「宜しくお願いします！」と礼を交わしてスタートする。此のスタイルで「4回戦う」。ワシは今回で4度目の参加だから割合に落ち着いて打っていけるけれど、我々が広島の「教室」で毎週打つ様な「気軽さ」は全く無い。

相手三人の打ち癖が全く分からんから、相手の顔色で如何なる「手？」で待っているかがサッパリ読めない。元々、麻雀では各自「チー」「ポン」「ロン」「カン」以外の言葉は一切「禁止」になっているから、ハテサテ？ こ奴等はナニを考えて「打って」いるやら。試合時間50分は「アッ！」と言う間に過ぎてゆく。 アラマ！ 相手が「男・お婆・若者」、奴等三人の手の内は全く「読めん」からハテサテ？ と頭傾げる間もなく、4回戦は終了してしまった。

ウーンワシの成績は1・2・3回戦まで2番と3番で、最後の4回戦でやっとトップ（1番）が採れただけで、今回は「アカン！」。個人戦での順位は152名中100番～110番程度だろうと考えたケレドも、成績発表では111位に終わったらしい。やれやれ。

役員挨拶の中で、来年の「大会」は「静岡市」になります云々。ワシは其れまで生きていられるかな？ 来年は85歳の好々爺です。



Cemitério Santa Isabel (Estilo Gótico Bizantino)

- Mucugê, BA バイーア州ムクジェ市のサンタイザベル墓地



ムクジェの街の郊外にあるビザンティン帝国(東ローマ帝国)様式(ポ語 ESTILO GÓTICO BIZANTINO)のお墓。

この写真の約3倍のお墓があり、遠目にも大変きれいに見えました。ちなみに、ビザンティン帝国(395年～2453年)の首都はコンスタンティノープル(ポ Constantinópolis、現在のイスタンブール市内の一部)でコンスタンティヌス大帝により作られたそうです。

筆者は9月下旬に、家内の弟が住んでいるイスタンブールへ行くので、この様な建物が現在もあるかどうかを見たいと思っています。

S.M.Arc. 8期 志方進



バタータには、品種によりいろいろな色の花があります

Diversas cores da flor de batata conforme a variedade

サン・ミゲル・アルカンジヨ 8期 志方進

シャツパーダ・ディアマンチーナでバタータ栽培をしている H さんからバタータには品種により、いろいろな色の花が咲くと教えてもらい、各地で栽培されているバタータの葉と花の写真を貰いましたのでお見せします。なお、次ページには先号より鮮明なドローンの写真などを掲載します。





上は歩いて見つけた局所の病気を消毒するドローンです。（ドローンには病気を見つける能力はないとのこと。）

畑全体の消毒はトラクターです。最近ではセボラをこのような250kg入る木製の箱に入れて倉庫へ運び、作業をしているそうです。これにより袋に入れて持って来ないで済むので、袋入れの手間と袋の代金などが節約できるとのこと。次ページは倉庫内で作業をしているところです。



250kg入れの木箱に入れて運搬したセボラの作業をしているところです。

【訂正】

前号（第222号）「シャッパード・ダイヤモンドチーナ訪問記（2）」の39頁と40頁において、ドローンで病気を見つけると書きましたが、病気は能力がある人間が畑を歩いて見つけ、病気が局地的な場合はドローンで消毒し、畑全体を消毒する場合はトラクターで行います。

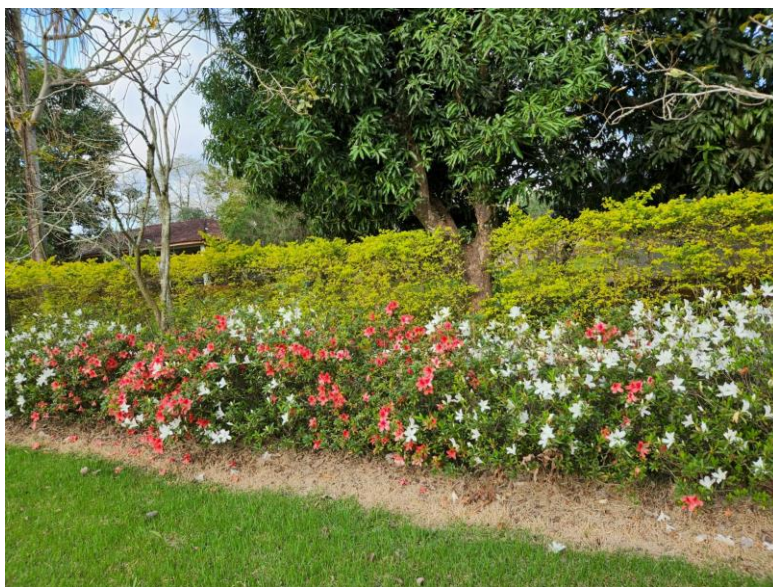


フォスの斎藤信夫さんからの写真

サン・ミゲル・アルカンジョ 8期 志方進

小生が訪問して見学したかったフォス・ド・イグアスーからパラグアイへの新しい橋（パラナ川）とアルゼンチンへの橋（イグアス川）の写真をフォス・ド・イグアスーに住んでおられる斎藤信夫さんが送っていただきましたので掲載します。咲いていたつつじの花の写真もいただきました。

春爛漫のつつじの花は、如何でしょう？ 今年の冬は、大分と暖かかったので、きれいに咲きました。8月15日撮影です。



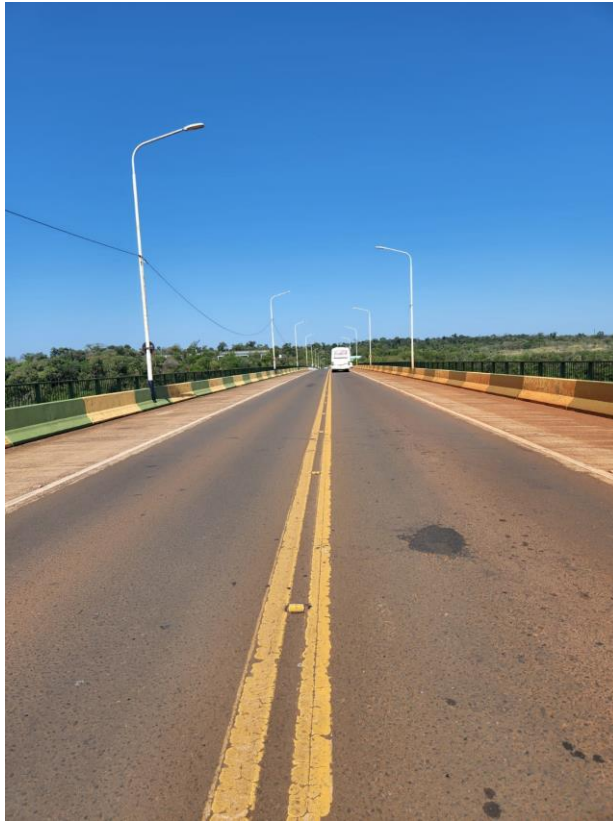
パラナ川に掛かるパラグアイへの橋です。右の写真では右側から流れ込むイグアス川の茶色い水の色が見えます。（下流側からの撮影です）



ブラジルとアルゼンチン間の橋
橋の名前はタンクレード・ネーヴェス



橋の中央部、国旗の色がある。
左がア国、右が伯国。下流が見える



ブラジル側からアルゼンチンを遠望
左側が上流。



アルゼンチンからブラジル方向を見る
左側が下流。



【編集委員メールアドレス、ご連絡用電話番号】

そ が よし なり

曾我義成 ysoga@rimobloco.com.br 事務所(Escritório) 11-4057-2377

携帯(Tel. Celular) 11-97120-0863

ぼんこはらくにひこ

盆子原国彦 kbonkohara@live.jp

おさだたかとし

長田譽歳 takatoshi.osada@gmail.com 自宅(Residência) 11-5563-6929

しかたすすむ

志方進 ssshikata@gmail.com 自宅(Residência) 15-3279-1521

皆様ふるってご投稿ください。ご投稿を受信しましたら、着信通知を発信しておりますが、ご投稿の到着を確認してください。

ご意見、ご提案、お叱りなどもお寄せください。

【電話番号の訂正】

伊達尚人さん（7期 150番）のWhatsAppの現在の番号は

(55) 44-99987-0232 だそうです。

【次号予定、お願い】

次号は12月15日に発行予定です。

ご投稿は11月20日(月)までにお願ひ致します。

【お知らせ】

編集委員の志方は日本へ旅行しますが、会報へのご投稿はインターネットのメールによって行われているので、今までと変わらず編集され発行されます。

【編集後記】

今号もご投稿をありがとうございました。

皆様どうぞお元気でお過ごしください。

